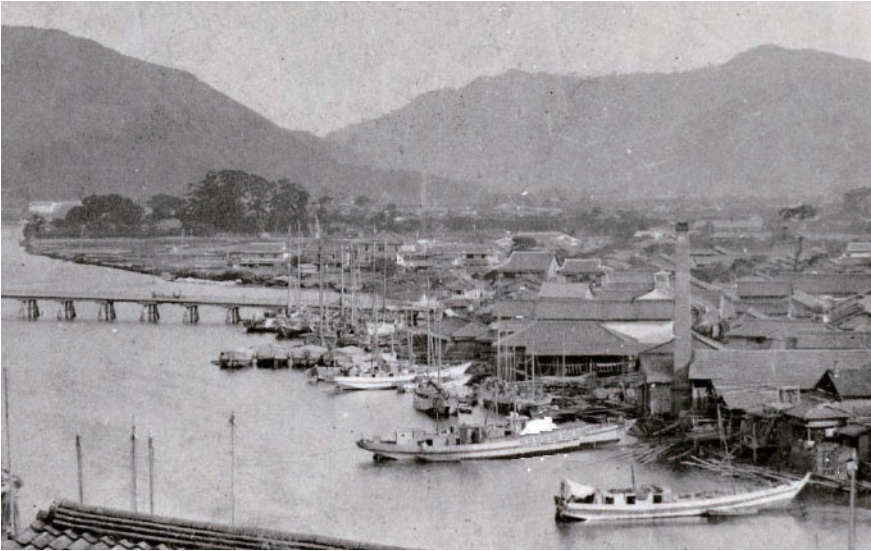




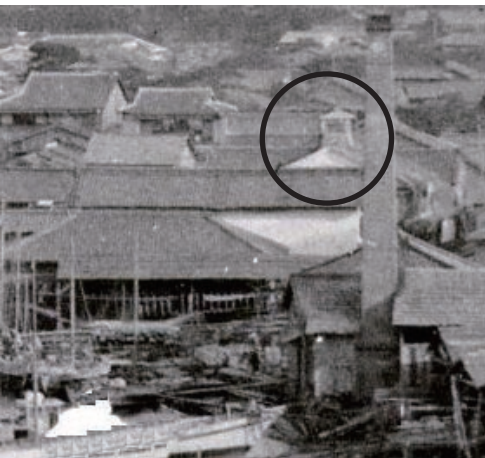
# 浜風だより

## 伊勢島利介商店と望楼

大正年間に撮影された現在の浜崎市場周辺



奥は当時の雁島橋



### 伊勢島利介商店メモ

- 明治20年(1887)大阪商船株式会社の取次店。
- 明治22年(1889)伊勢島利介の勤奨により、萩の夏橙仲買商が集まり、萩蜜柑輸出仲買商組合を結成する。(組合長 山中三吉)
- 明治34年(1901)萩の夏橙仲買人らが長州夏橙同業組合を創立する。
- 明治39年(1906)長州萩夏蜜柑組合が設立される(44年に解散)。組合長菊屋剛十郎。従来の萩夏みかん輸出仲買商組合所属の仲買商も本組合に吸収合併される。組合長であった山中三吉は販売部支配人となる。
- 明治40年(1907)長州萩夏蜜柑組合に吸収合併されていた萩夏蜜柑輸出仲買商組合は、分離独立して元にもどる。
- 神戸-馬関駅間開業は明治34年。

清水満幸

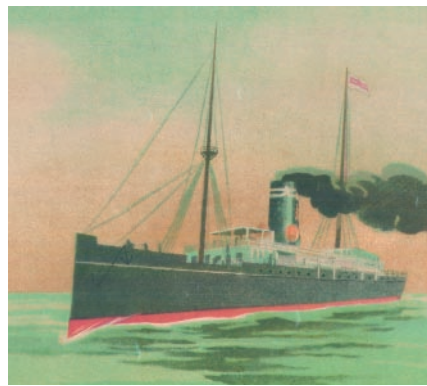
伊勢島利介商店は、その大阪商船会社の代理店として、荷客取り扱いをしてきたようです。便覧に掲載された商店の店先には、漢字の「大」を圖案化した大阪商船会社の社旗が掲げられています。

商店があつた場所は、「萩印刷」があつた場所です。明治期には松本川沿いの道路はなく、商店の東側(川側)がすぐに岸壁・ガング(石段)となつていたことが、掲載された版画から見て取れます。当時の建物と蔵が現存しますが、「荷揚場」の図によれば、蔵は川側に開口して、船(はしけ)との間での荷物の積み降ろしが行われていたことを見て取ることができます。

また伝承によると、伊勢島商店は船宿を兼ねていたとされます。そして、建物の屋根の上には、船の出入りを確認することができる望楼(写真左〇印)があつたとされています。林家(奈古屋商店)に伝わります。大正年間に撮影された写真には、その望楼が写っています。港町浜崎らしい建物となっています。

### 検索してみてください

これまで清水さんに書いて頂いた「浜風だより」のコラムや、それに関する資料が、萩博物館のブログに順次掲載されています。「萩博物館 ブログ」はまかせだより」で検索してください。



ポスター(一部)に描かれた大阪商船の汽船

『山口県豪商便覧』という、明治19年(1886)に刊行された商工便覧が伝わっています。県内各地の商店や会社、製造所などを、当時先進の銅版画(エッチング)で紹介したものです。山口、防府、徳山、柳井、岩国、萩の171業者が掲載されていますが、そのうち萩については、46業者を数えることができます。掲載業者数の四分の一強を占めるといふことで、明治中期の萩の活況がうかがえます。

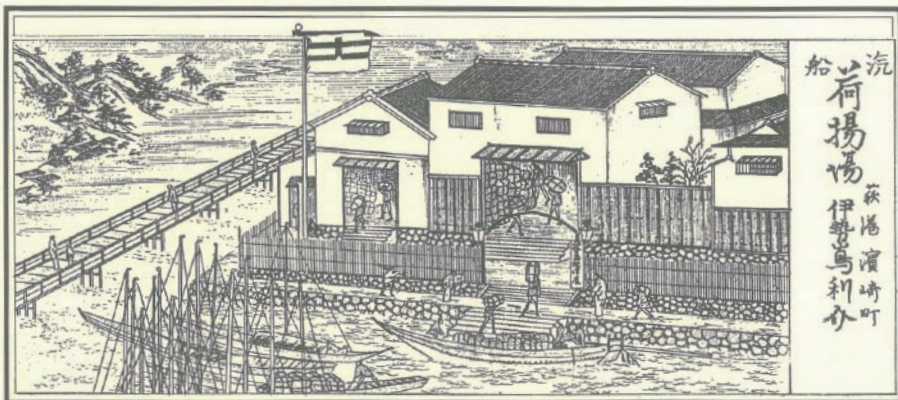
この便覧の中に、「汽船荷客取扱」汽船荷揚場」として浜崎の伊勢島利介商店が紹介されています。実は、萩以外にも13の汽船荷客取り扱い業者や回漕業者が紹介されていて、当時の物流において船が大変重要な位置を占めていたことが分かります。

ちなみに、神戸・馬関駅(下関駅)の山陽鉄道が全線開業するのは、明治34年(1901)のことです。明治20年頃より京阪神に盛んに出荷されるようになった萩特産の夏みかんは、当初は、専ら船で運ばれていました。

そのような貨物に加えて人も運んだのが、浜崎に寄港した大阪商船会社の汽船でした。社史などによると、明治17年(1884)に、大阪と境港・安来を結ぶ蒸気船による定期航路が開設されます。隔日の運航で、山口県の日本海側では江崎、須佐、萩、仙崎に寄港しています。



旧山中家に所蔵されていた大阪商船のポスター



伊勢島利介商店 荷揚げ場



伊勢島利介商店



